

大杉谷国有林からの手紙

5通目 ～大杉谷国有林の新しい名前～

日本三大渓谷、日本の秘境、大杉谷森林生態系保護地域、吉野熊野国立公園、様々な方々に親しんでいただいている大杉谷国有林にまたひとつ名前が加わりました・・・「大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク」。2016年3月に拡張認定され、大杉谷が明記されました。

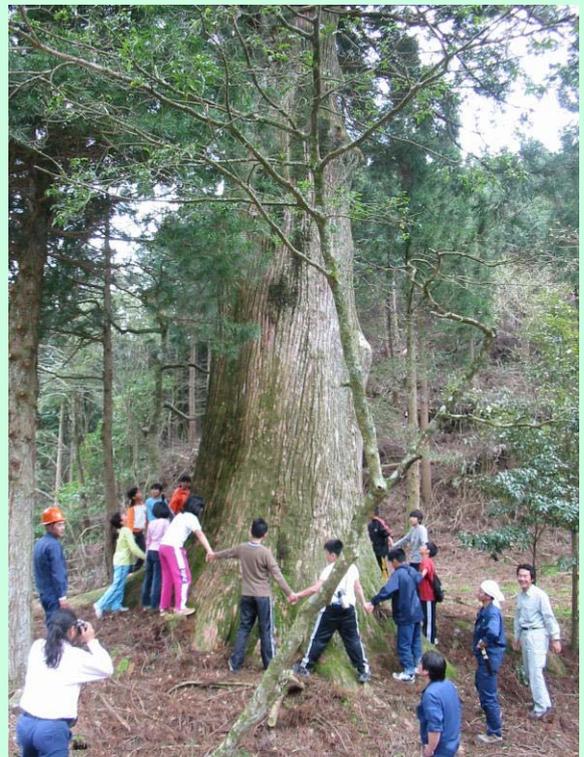
「ユネスコエコパーク」とは、豊かな生態系や生物多様性を守りながら文化的・経済的・社会的に持続可能な発展を目指している地域として、国際連合教育科学文化機関「ユネスコ」が認定している「生物圏保存地域（Biosphere Reserve）」の日本での通称です。

「世界自然遺産」が手つかずの自然を守ることを目的としているのに対して、「ユネスコエコパーク」は、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的としています。

すなわち自然と人の調和と共生を目指す取組みで①生物多様性を保全する、②学術的研究支援を行う、③経済と社会を発展させるの3つの機能を果たすために「核心地域」「緩衝地域」「移行地域」の3つのゾーンを設定しています。

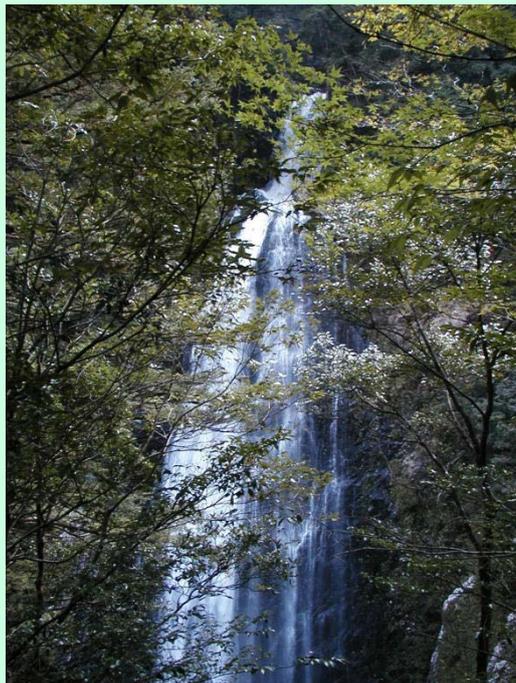
ユネスコエコパークは、世界120か国、669地域（2016年3月現在）登録されており、日本では7つの地域（「志賀高原」、「白山」、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」、「屋久島・口永良部島」（以上1980年登録）、「綾」（2012年登録）、「只見」及び「南アルプス」（2014年登録））が登録されています。

それでは今回拡張登録された「大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク」の内容について少し紹介を・・・紀伊半島の中央部の山岳地域で、三重県の大台町と奈良県の上北山村・川上村・五條市・下北山村・天川村・十津川村をまたぐ、1市1町5村で構成されており、総面積は、118,367ha。



大杉谷国有林を含む「核心地域」「緩衝地域」となっている一帯は、宮川、熊野川、紀ノ川の水源地となっている原生的な森林で、「大杉谷森林生態系保護地域」、「吉野熊野国立公園」として、国有林の森林計画や公園法などで適切な保護・保全が図られています。また「移行地域」にあたる各市町村は、三重県・奈良県景観計画区域として定められ、J-V ER制度の認証取得など自然と人間社会の共生に向けた地域づくりが行われています。

特徴としては、標高差が1,890m、気温差がおよそ11℃あり、また年間降水量が3,500mm と国内有数の多雨地帯であることから、幅広い生物層とそれらを育む豊かな自然を有する地域であることや大台ヶ原や大杉谷周辺は、全国的にも有名な景勝地と洞川温泉・入之波温泉・小処温泉を有し、多くの観光客が訪れています。



今回の拡張により、人が生活し自然と調和した持続可能な発展を実現する地域である移行地域が追加されました。

今後、大台町をはじめ各市町村において、自然の恵みを生かした各地域の特色ある産業振興が展開され、環境を守りながら、循環型で持続可能な地域づくりが進められていくこととなります。

このことから、私たち三重森林管理署においては、核心地域である大杉谷国有林の豊かな生態系や生物多様性保全に努め、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク」の存在価値を高めていきたいと考えています。



参考に・・・「大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク」に関するWEBサイト

- ・「大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク」(<http://ooobr.jp/>)
- ・大台町ユネスコエコパーク (<http://ecopark.odai.or.jp/>)
- ・「小冊子GREEN PAPER」(http://ooobr.jp/wp/wp-content/uploads/GP_WEB.pdf)

発行：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)